

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームひらき		
所在地	宇部市開1丁目740-1		
電話番号	0836-29-5050	事業所番号	3570200851
法人名	社会福祉法人 むべの里		

訪問調査日	平成 20 年 3 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 3 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人 非常勤 4 人 (常勤換算 6.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 ~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 400 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 月 1,000 円	
その他の費用	光熱水費 月額11,000 円		
	通信費 年額 2,000 円		

(4) 利用者の概要 (2月8日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護1 3	要介護4 0	
	要介護2 4	要介護5 0	
	要介護3 2	要支援2 0	
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 むべの里診療所(内科)・西村内科クリニック(昼間のみ) 歯科 ほかお歯科(往診)
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

法人が自治会であり、同敷地内にケアハウス、デイサービス、障害施設、喫茶店、トーフ屋、パン屋等があり、散歩や買い物などで日常的に交流ができています。玄関先にはたくさんの花が植えられ、居間は広く全ての居室、トイレ、風呂が見渡せ、雛人形やいけばな作品が飾られて季節感が溢れています。明るい穏やかな暮らしづくりが伺えました。

(特徴的な取組等)

グループホームの年度目標と共に、職員もそれぞれの目標を立てて、日々の介護に当たり年度末には評価をするなど、業務に対する前向きな姿勢が伺えます。勤務体制がA・B・Cの他4時間勤務のE勤を加えて、外出、外食、通院や各行事に柔軟に対応しています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

全員に結果を伝え、また運営推進会議に報告し、数回に分けて取り組んでいます。応急手当の研修や訓練については、法人の介護技術研修の中で看護師による月1回の訓練を実施しており、夜間救急を含めて2ヶ月に1回の研修を計画しています。運営推進会議のメンバーは、民生委員を加える予定にしています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員に説明し、様式を配布記入後、検討会を開き、管理者がまとめました。10日間程度かかり大変だったが1年間の反省の機会になったとの感想です。

(運営推進会議の取組状況)

定期に実施し、メンバーは、地域代表、市職員、家族、利用者で行事の検討や防災、ターミナルケアなどについて活発に意見交換をしており、ベランダにスロープを作るなどホームの運営に活かしています。

(家族との連携状況)

毎月のホーム便りで、利用者の暮らしづくりと個別のコメントを記入して、金銭出納の写しと共に送付しています。面会時には利用者の状況を伝えると共に意見要望を聞いています。体調の変化や検診の結果については電話で知らせるなど家族との連携を深めています。

(地域との連携状況)

法人自体が自治会で、敷地内の施設(ケアハウス、デイサービス、障害施設、レストラン)との交流は日常的に行われています。法人の行う夏祭りや運動会、創立記念大会などに地域の人を呼び大勢の参加があります。またPTAや小中学生の見学もあり、介護等の相談の来訪もあって、今後さらに地域との交流を深めてゆきたいと考えています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>法人の理念を全員で検討し、地域密着型サービスとしての、ホーム独自の理念を作り上げている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>事務室に掲示してミーティングで唱和し、地域の人々との挨拶など、全員が意識して日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭りや散歩時に挨拶を交わしたり、法人の夏祭りや運動会に地域の人々が参加して交流している。またPTAや小中学生の見学や介護相談の来訪もあり、地元の人々との交流に努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義目的を理解し、1年間の反省の機会として全員で取り組んでいる。外部評価は運営推進会議にも公表し、協議しながら運営に生かしている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>定期に開催し、メンバーは地域代表、市職員、利用者、家族で委員からの意見を活かして、口腔体操等の研修を実施したり、行事や防災、ターミナルケアについて協議したりして、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>介護保険関係課とは当該事業部門で連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月ホーム便りで、暮らしぶりや個別のコメント、行事予定を記入して、金銭出納簿の写しと共に送付している。面会時には利用者の状況を伝え意見、要望を聞いている。体調に変化があったり、検診の結果は電話で伝え、個々に合わせて報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	入居時や面会時の声かけ、年3回の家族会(アンケート)、ひらきだよりの呼びかけなどで、意見や不満が気軽に出来るような雰囲気作りに配慮すると共に、苦情相談の窓口及び一連の手続きを明確に定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	夜勤、A、B、C勤務のほかに、4時間勤務のE勤体制を定め利用者や家族の変化、要望に柔軟に対応できるよう努めている。職員の急病等に対する代替は、管理者または非常勤を充当している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	本部の理解を得て、極力異動を少なくし、家族利用者には早期に知らせ、また交代の重複勤務で、出来るだけダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人独自の管理者研修(年4回)や全職員が月1回の介護技術者研修を受講している。必要に応じて外部研修も業務の一環として受け復命伝達している。新人職員については、働きながらの声かけや指導をしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	宅老所グループホーム連絡会が年4回あり、職員2名づつ参加、勉強会や交流を行っている。またむべの里交流会(5箇所)では、運動会、園芸教室、運営推進会議で交流してサービスの向上に活かしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に自宅を訪問したり、ホームに来てもらい、お茶の時間をもち雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>常に一方的な立場にならぬよう配慮しながら、教え教えられる関係作りを築き、共に喜んだり感謝を伝え合っている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>生活歴や日々の言動の中から意向を把握し、また家族からの情報で支援している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時に家族や利用者の意見要望を聞き、職員全員で月1回ケアプラン会議を開催し、個々のアイデアや意見は介護計画に取り入れている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月毎の見直しを基本としているが、変化が生じた時はそのつど検討し、関係者と話し合い新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院の付き添いや早期退院の援助、個別の外出支援など、要望に応じて柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に家族と、通院方法や受診結果の伝達について協議し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医療体制が必要になった時点で家族と話し合い、方針を共有している。対応について医師、看護師、家族、職員で繰り返し話し合っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	常に意識し、言葉かけや支援の仕方に配慮し、記録等は目につかない場所に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のパターンは概略決まっているが、一人ひとりのペースを尊重し出来るだけ希望に沿うように努力している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食及びご飯はホームで作り、昼食と夕食は配食を利用している。盛り付けと後片付けは、それぞれの力を活かして一緒に行い、食事は皆で同じものを食べ、楽しい雰囲気になるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日15時～17時で入浴剤や薬湯風呂など変化をつけて楽しんでいる。入浴の希望によっては半身浴などでも対応している。就寝前の入浴については検討課題としている。	・さまざまな入浴時間や形態の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、個人の状態や状況に合わせて、掃除、ゴミだし、洗濯物干し、園芸など活躍できる場面づくりと、ぬり絵、習字、詩吟など楽しみごとの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お天気がよければ毎日散歩に出かけており、買い物やドライブなど閉じこもらない生活に配慮している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員全員が理解しており、研修や会議等に参加し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の状況を見守りながら、日中は施錠をしないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的な研修があり、事故報告書やヒヤリはっと報告書を整備し、対策の検討をして再発防止に活かしている。月1回の会議で確認をしている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルはあり、月1回法人の介護技術研修の中で確認しているが、定期的訓練は不十分である。	・定期的訓練
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域や消防署の協力を得て、年2回夜間も想定した火災訓練を実施している。ひらきが地域の非難場所にもなっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は薬の情報を理解しており、服薬時には一人ひとり確認し手渡ししている。必要な情報は医師や看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、力量に応じたケアを行っており、義歯ハブラシは夕食後消毒管理している。2ヵ月ごとに歯科医の往診による口腔チェックを実施している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量の記録をし、栄養士によるカロリーやバランスの把握をしている。一人ひとりの状態に応じて、形態を変えたり食事時間を長くして個別に支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗いやうがいの励行、ドアノブの消毒を実施している。職員は定期的に勉強会をし、感染予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間には観葉植物や生花、雛人形、利用者の絵手紙や習字などの作品が飾られ、雑誌や本も自然におかれて、居心地よくくつろげる雰囲気であった。不快な光や音もない。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や仏壇、写真、作品など好みのものを飾り、心地よく過ごせるように工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームひらき
所在地	〒755 - 0096 山口県宇部市開1丁目740 - 1
電話番号	0836 (29) 5050(代)
開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (2 月 1 日現在)

ユニットの名称	グループホームひらき			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	3	要介護 4	
	要介護 2	4	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	グループホーム職員(常勤4、非常勤4)8名と勤務帯もあり3回に分け話し合いの時間を作って作成した。
評価確定日	平成 20 年 2 月 15 日

【サービスの特徴】

グループホームひらきは、近くに常盤公園があり、遠く美祢や九州の山が一望出来る高台にあります。同じ敷地内は、むべの里ケアハウスひらき・障害者授産施設あゆみ・障害者グループホーム・豆腐処あい・あゆみベーカリー販売店・喫茶ゆうゆう庵等併設されて、普段散歩や買物、外食、見学など楽しみがあります。各種の行事には、各事業所合同もあり、その為交流も多くあります。地域の方々との交流の中で、開かれたグループホームとして日々笑顔多く、心身の健康を見守りながら「人生の主役」として生き生きとした暮らしが出来ます事を目標に支援して参ります。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		もっと、開放的なホームへと行事を通し、実施していきたい。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		広く隣近所との付き合いを増やしていきたい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で、何回か分けて取り組んでいる。運営推進会議で報告し、改善策にも相談している。	改善に取り組んでいきたい(地域活動の取り組み)。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	改善策が多くあるが、率直な意見を少しずつサービスの向上に具体的に活かしている様にしている。	口腔体操実施の継続している(嚥下障害について会議で話し合ったのち)。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	会議時に相談し、課題解決出来る様にしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	研修などで学ぶ機会があるが、まだ活用する様な支援を行っていない。	今後職員は、必要な人には、活用出来る様支援出来る事をもっと学んでいきたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者研修で学ぶ機会を持ち、法人内で人権についての勉強会、虐待防止の手順書、身体拘束に関する手順書等で学ぶようにしている。	定期的な学習会を取り決め、実施したい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や退所時は、家族等に十分な説明し、又、段階的に期間をもうけ、理解、納得していただく様に努めている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情あれば充分受け止めて、運営に反映させる様に努めている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、家族便りに心身の様子、預かり金報告、領収書、ひらきだよりでその月の行事、全般のことを報告し、行事写真を同封し、利用者の様子が報告出来ること努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があればすぐ応じる様に整理出来ている。又、心身の様子を記録等開示し、説明に努めている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約時、重要事項の説明書で充分説明し、意見や不満、苦情等が表せる様な雰囲気作りに心掛けている。		第三者委員、外部機関を明示している。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者は、利用者の様子を伺ったり、職員の意見、相談を聞く機会を持つこと心掛けています。		管理者会議等で、意見や提案を聞く機会がある。
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の状況により、柔軟な対応出来ること、勤務調節等で努めている。		必要時に合わせた勤務を変更して柔軟に支援している。
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	人事異動は本部の管理の為、むづかしい面もあるが、利用者へのダメージを極力防ぐ配慮に努めている。		本部人事担当者との相談、意見を出し合っている。
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	むべの里独自の管理者研修(年4回)受け、又、学んだことを職員に反映出来る様に努めている。		月1回、介護技術研修に参加(全員)又、必要時、他事業所の研修に参加している。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代、40代、50代、60代の職員配置で利用者の個々の対応に柔軟に努めている。		現在入居利用者は、男性職員受け入れは不可能な為、以前の様に、男性職員配置に取り組みたい。
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所グループホーム連絡会を始め、研修等で同業者との交流の機会を図っている。		むべの里5グループホーム交流は、運動会、園芸教室、運営推進会議等で実施している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	忘年会、懇親会やGH会議の後、お茶会でストレス軽減する様に努めている。時に、個別に話し合う機会を作る様に努めている。		休憩場所の確保はむづかしいが、お互いに一息出来る時間の配慮にもっと多く努めたい
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	1年間、努力や実績等で、優良賞等決定の上表彰され、向上心持って活かせる様配慮されている。		職員の資格取得に向けた支援がなされている(講習、技術介護研修実施されている)。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	給与体制に評価があり、運営者は適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	毎回利用者より、頻繁に不安な事からの相談を受け、その都度受容し、協力している。		契約前より家族等が抱いている不安や思いを話し合うようにしている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	変化が起これば、利用者の様子を報告、又相談し、家族と一緒に解決策を考え努めている。		契約前より家族等が抱いている不安や思いを話し合うようにしている。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一人ひとりの状況に応じた対応、家族と一緒に良い策を考えていくことに努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ケアプラン作成する上で、家族の意見など取り入れながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	各行事や食事時は、一緒に楽しい雰囲気作りや日々の生活の場で支え合う関係作りに努めている。		利用者より意見や希望を伺い、実施するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	各行事(家族会、運営推進会議、外出・外食)等、出来るだけ参加いただき、喜怒哀楽を共にしていると思っています。		家族の協力や来園も多い(一部の家族以外)。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	月1回、家族便りやひらき便りに行事の写真を送付し、ホーム生活の状況を理解していただけることに努めている。		身寄りのない利用者に対しても、もっと家族のふれあいのような関係を作っていきたい
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	月1回は必ず、支払いに訪問していただく様になっている。家族便り等で来園いただく様な便りを書いている。		家族との外出も多くなっている。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の状態を把握し、席替え・日常のリクリエーション・家事手伝い等で孤立しない様、仲良く生活出来る様に努めている。		職員の見守りで、孤立しない様に取り組んでいる。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状にホーム便りやお祭りの案内を送付したり、相談の電話があった時、快く相談を受付している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望の飲み物を利用者同士が聞き取りされ、一緒に準備している。行事、レクリエーションは、本人の希望を聞くようにしている。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や一番親しい知人より、入所以前の暮らしぶり、地域との関わり等を具体的な情報を伝えてもらい、得られた情報をその人らしい暮らしに活かせるよう努める様にしている。		来園時や利用者の支援で情報が必要な時、必ず協力していただく。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りやケース記録により、その時々状態を把握した上で生活のリズムに合わせて、一人ひとりに合わせた暮らしを送れる様に気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回、ケアプラン会議実施で、職員全体で取り組み、又、家族や関係者にも良いアドバイスをいただく時もある。	同席は、時間帯もありむづかしいが、もっとケアプラン会議に家族も同席出来ることを取り組んでいきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	新たな介護変化が生じた時は、その都度、会議を開き、臨機応変に対応出来る事を話し合う様にしている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録等の情報を共有し、ケアプランに活かしていると思っています。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の要望に応じ、本部(各事業所等)等、相談の上、柔軟な支援を図っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各行事ある場合、案内をし、参加いただける様にしている。防災訓練にも消防署や地域の方にも協力いただく。	広くGHを知っていただく為に、利用者と一緒にもっと地域の中に出掛ける様にしたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	開放して、常時来園受付している。昨年、小学校父兄会、各団体の来訪者ある時、利用者に対応され、喜ばれた(認知症についていつでも説明出来る様に図っている)。	地域に向けてキャラバンメイト発信していきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	少しずつであるが、意向や必要に応じて、訪問理容室サービス、訪問歯科を利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		チームの連帯作りや介護職員の終末期における研修も定期的実施していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>申し送り時、介護理念唱和し、職員全員が意識的に充分気をつけている。個人情報の取り扱いは、いつも気をつけている。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>訴えある時や思いは、傾聴に時間を取り、しっかり説明し、納得していただく様に努めている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>毎日の家事一般は、個々人利用者の出来る力を発揮出来る様に支援している。</p>	<p>個人差もあり、全ての利用者の出来る力を発揮する場はむづかしい。今後の課題である。</p>
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員勤務対応で1日のパターンがある程度決まっている。寝坊やゆっくり食事に時間を取られる利用者等、マイペースでの過ごし方もあるが、一人ひとりにどの様な過ごし方をし、希望に沿っての支援に努めたい。</p>	<p>職員体制もあるが、もっと一人ひとりその日の希望にそって支援して行きたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容院や家族対応での美容室等で身だしなみやおしゃれ出来る様にしている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎食の準備、盛り付け、片付けは一緒に行っている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>毎日お茶の時間は、利用者一人ひとり希望を聞いて(利用者が聞いてメモする)一緒に準備、配膳して楽しんでいただいている。</p>	<p>今後お酒等、楽しめる様に支援出来る様にしたい。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄パターンでその都度、声掛けやトイレ誘導、介助実施している。</p>	<p>3名:布パンツ、7名:紙パンツ 使用</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		一番理想とされる入眠前に入浴出来る事が課題となっている。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		(夜間安眠むづかし利用者は)眠剤を希望の時間服用されて、夜間安心して眠れる工夫している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		各差が大きく活かされる場所へは、職員体制で無理な場面も多い。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		ほとんどの利用者は、家族より預り金として預り、必要時に支払い、月1回収支決算と領収書を渡しています。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		1名の方が、毎回外出直前に中止され、全員の外出・外食がむづかしくなっている。全員参加に取り組みたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		デパート巡りなど利用者の希望を叶える様取り入れていきたい。現状では職員体制で難しいと思われる
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		来園者多く、コーヒーなど用意し、ゆっくりと団楽いただける様な環境作りしている。来園者も満足されている。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		急に宿泊されても、寝具、食事、準備出来ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	どんな行事でも、必ず参加を呼び掛け、一緒に楽しい一時を過ごしていただける様にしている。		家族会、お祭り、合同運動会、運営推進会議、外出・外食等
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	各外部研修やひらき会議等で理解し、話し合いの中、抑制や拘束のないケアに努めている。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊の強い利用者の為、玄関のみ内から開かない様になっている(外からは自由に入出入り出来る)。他は、極力鍵を掛けないケアに努めている。		全て開放出来、自由に入出入り出来る体制に持っていきたい。
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ワンルールの為、利用者を見守りやすい位置で昼夜を通し、さりげなく利用者の様子を見守りしている。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせ、注意が必要な物品は管理し、必要に合わせ、危険防止に努めている。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的な防災訓練参加に、事故防止について事故報告書、ヒヤリはっつに関する報告、記録により再確認を話し合い、事故防止に努めている。		月1回の会議に必ずレジメの中に取り入れ確認する。定期的な訓練も実施したい(防災以外)。
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	月1回ひらき介護技術研修で確認しているが、もっと定期的な応急手当等の習得を図りたい。		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっつ報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故発生原因を探り、再発防止の為の話し合いを行うが、今後に活かすまでの職員間の意識付けがなされていない。		専門職交えて、発生防止の為の今後の改善策を講じたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		ひらき施設全体としての訓練の為、グループホーム独自の訓練を定期的実施する。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬の変更は、連絡帳に詳しく記入し、職員全員が共有している。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		トイレ掃除は、必ず塩素系で消毒実施している。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	アプローチは、プランター等で四季の花を植え、玄関入口内に行事等の写真掲示し、出入りしやすく、又日常生活の様子が一目で解っていただける様に工夫している。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアの空間スペースに観葉植物や雑誌、本、行事の写真に季節ごとの飾りで季節感を取り入れている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブルより、TV観ながらおしゃべりや玄关口ベンチを自由に利用され、思い思いに過ごしていただける工夫をしている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの生活の場として、馴染みの家具や椅子、仏具を配置され、居心地よく過ごせる様に工夫されている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調節は、心地よい生活ができる様に配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	グループホーム全体がバリアフリーとなっている。浴室やトイレ、玄関外スロープに手すり等、居住環境が配慮されている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室に名前、トイレ、浴室など、一目でわかりやすい表示をし、不安や混乱を招く要因に気をつけ、本人の状態に合わせた工夫に努めている。	非常口としてベランダも利用する。
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダは、一緒に洗濯物干しに利用し、季節ごと、ティータイムやソーメン流し、スイカ割りなど大いに活用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない